スーパーグローバル大学創成支援事業　令和２年度中間評価結果

大 学 名	立命館大学
整理番号	B22
構 想 名	グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

（総括評価） A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。

（コメント）

本構想は、「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」を目指して、「国際通用性」「開放性」「交流性」の３つの視点から、教育・研究、学生諸活動、教職員・組織、ガバナンス等に関わる様々な改革を行う意欲的な取組である。

立命館大学において、特に成果を上げているのは、海外大学との共同・連携による教育プログラムの展開である。大連理工大学との国際情報ソフトウェア学部、中韓とのキャンパス・アジアプログラム及びアメリカン大学とのジョイント・ディグリープログラム（国際関係学部アメリカン大学・立命館大学国際連携学科）などの経験を基として、令和元年にはオーストラリア国立大学とのデュアル・ディグリー・プログラム（グローバル教養学部）を開設し、順調に展開させていることは高く評価できる。また、大学全体としても、学長や理事長を含む「立命館大学グローバル・イニシアティブ推進本部」のもと、国際部、教学部、総合企画部を中心にすべての部門が関わる形で全学のグローバル化を推進する体制が構築され、当初構想のさらに先を見据えた R2030 中期計画を策定して、大学改革を進めていることは SGU 事業の持続的展開を期待させるものである。また、個別にも様々な優れた取組が行われており、構想の実現に向かって着実に進んでいる。特に、外国人や女性の役職者登用、教職員の多様化、文系・理系のバランスある発展、大学院の強化、学生交流を促進する仕掛け、職員の高度化・専門化等の体制作りが進展しており、外国人留学生への奨学金の強化、海外留学科目群の全学への拡充や各キャンパスでのグローバルコモンズの開設など、具体的な取組が行われている。さらに、外国語による授業科目数や特に学部における外国語のみで卒業できるコース数は目標を上回っており評価できる。

しかし、外国語基準（CEFR B1 レベル(TOFEL-ITP487 点以上/TOEIC550 点以上)）を満たす学生数の割合は目標値を大きく下回っている。また、協定等による留学生の受入れについては目標値を達成しているが、日本人学生に占める留学経験者の割合や協定による派遣日本人学生数は目標値を相当下回っている。学生の語学力や留学派遣については今後の更なる取組を期待したい。

財政支援終了後を見据えた自走化への原資については、寄付金や学内予算の内在化などの方向性が示されていることが評価できる。しかし、先進的な国際教育プログラムを長期的・継続的に支えていくためには、資金確保への具体策の更なる検討が期待される。